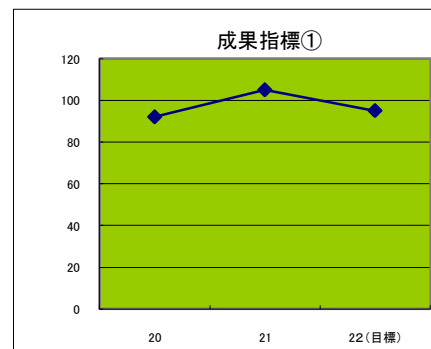
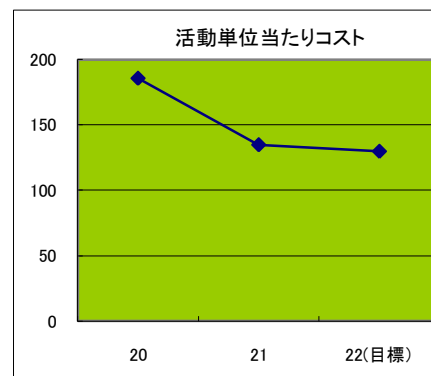


事務事業名		ブックステーション管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	10	教育費
					項	5	社会教育費
					目	9	図書館運営費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	事業	8	図書館総合運営	
	施策(節)	3	生涯学習				
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実				
関連する計画等				作成部署 教育委員会事務局生涯学習室図書館課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先 072 - 950 - 5501 内線			
	図書館から離れた地域の方々。						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	身近な所で図書に親しんでいただけるよう、資料を提供する。						
	図書館を利用しにくい地域にお住まいの方に、図書に親しんでいただけるよう現在、羽曳野コロセアム(火・木・金)、野々上連合会館内(月・水・金)において開設している。開館時間はいずれも、13:30~16:30となっている。						
根拠法令等		図書館法					
事業開始時期		☐ 昭和 15 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 15 年開始 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている				終了年度	平成 年度
事業開始時からの状況変化		自動車文庫休止後、地域のサービス拠点として運営している。平成22年度BS支所からBSコロシアムにサービス拠点を移し、運営を始めた。					
市民や議会の要望							
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☒ 民間委託 ☐ その他		委託内容 野々上ブックステーション運営委託			

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		1,242	1,242	1,242
人件費【2】 (千円)		3,660	2,940	2,655
職員数	正規職員	0.20 人	0.16 人	0.15 人
	再任用職員	0.30 人	0.10 人	0.00 人
	嘱託職員	0.60 人	0.60 人	0.60 人
	臨時職員	0.05 人	0.05 人	0.05 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		4,902	4,182	3,897
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	4,902	4,182	3,897
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 貸出冊数	冊	26,402	30,998	30,000
② 貸出人数	人	8,319	9,601	9,000
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		186 円	135 円	130 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		41 円	35 円	33 円



成果指標	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	①	1日当たり貸出し冊数 (式) 貸出冊数÷開館日数	冊	1日当たり何冊の資料を貸出しているか	目標	94	94	達成率(%)	111.7%	95
					実績	92	105			
	②	一人当たりの貸出し冊数 (式) 貸出冊数÷貸出人数	冊	一人当たり何冊の本を借りているか(蔵書の魅力)	目標	3.28	3.20	達成率(%)	100.9%	3.23
					実績	3.17	3.23			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	地域的に図書を利用しにくい市民の方々へも、平等なサービスの提供をする必要がある。
		○									

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	図書館を利用しにくい方々が、身近でサービスを受けられる。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	開館日時の限定や、町会への委託などで効率的に運営している。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	図書館から離れた方々へのサービスとして、有効である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	町会へ委託し協働して業務を行っている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	利用度は高い。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	利用率は高く、図書館を利用しにくい地域の方々に支持され、多く利用されている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	1冊でも多くの資料を一人でも多くの方々に利用してもらえよう、魅力ある蔵書を築くなどして、サービスの向上を図る。	
行革本部評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価理由・意見	